

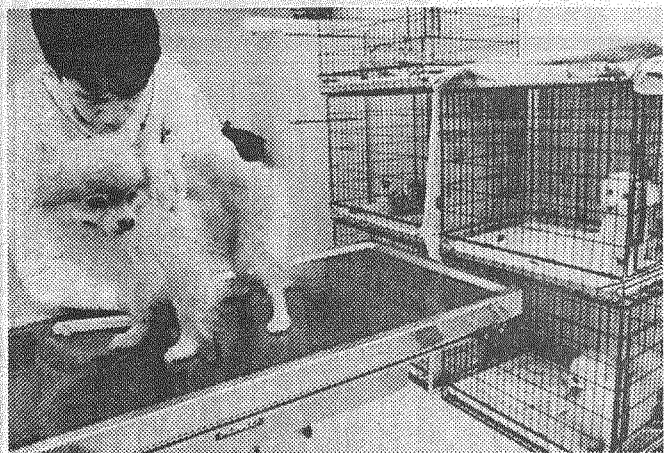
ペット見殺しにしないで

長崎県雲仙・普賢岳の噴火で、島原市では、避難対象地区の住民と共に犬や猫などのペットの避難も進んでいる。しかし、その一方で、取り残された動物たちも少なくない。動物愛護団体からは、「ペットも家族の一員。見殺しにはできないのでは」との声も出ているが……。

長崎県環境衛生課によると、二十日までに保護されたペット類は、犬五十五匹、猫十六匹など。被災住民が共に連れて来たが、親類宅などで引き取ってもらえず、体育館などの避難所で飼うわけにもいかないと、島原保健所や同県獣医師会会員の七つの病院などに一時預かりされている。

しかし現地につながれたまま取り残されたり、飼い主とはぐれて行方不明になったりした犬や猫も、相当

雲仙噴火で置き去り避難も 飼い主わかる工夫を



「無料里親」で、避難区域の住民からペットを預かっている島原市内の動物病院

数とみられるが、「人命優先」ということで、現地に入っている実数確認というところまでは手が回らない(同県環境衛生課)。

災害時のペットの扱いが注目されたのは、五年前の

多数確認された。

この経験から、同課では、避難対象地区との境界付近五か所にエサ場を設け、置き去りにされたペットのために職員らがドッグフードなど三十ポンドを置いて回った。エサの減り具合を見ながら、設置個所を増やすことも検討する。

一方、家畜は、乳牛が約千八百頭のうち約千七百五十頭が避難するなどほとんどが飼い主の手で対策が取られているという。

火山の噴火や地震など大災害に直面した時、ペットや家畜が犠牲になるのはやむを得ないのだろうか。

動物の飼育や苦情の無料相談を三十余年にわたって行っている「日本犬猫の会」の田中あやさんは、飼い主が連れて移動できない場合、迷子になっても分かるように首輪に飼い主の電話

番号を書き込むことを提案する。

「犬や猫は自然災害を異常に恐れます。とりわけ犬は、鎖から放すと飼い主も忘れて突っ走り、行方不明になりがちです」

日本動物愛護協会の会田保彦事務局長も、同じ考えで、動物が生き延びさえすれば、飼い主のもとに戻れる。

る可能性が高いという。会田さんは「人命が大事か、動物が先か、そんな論争をしようというのではなく、ペットを飼う以上、家族の一員という覚悟でかわいがって欲しいということ。ふだんから飼い主を明らかにしておくことが災害からペットを守る第一歩」と話している。